

JFの2004年度を振り返る

日韓外交正常化40周年を記念し、2005年は「日韓友情年2005」としてさまざまな交流事業が行なわれました(2005年3月までに開催されたもの)。

日韓友情年スーパーライブ・イン・ソウル

2005年1月28日、オープニングイベントとして「日韓友情年スーパーライブ・イン・ソウル」を開催。本事業は、ポップミュージックを通じて両国民の交流を促すことを目的に実施され、日韓友情年テーマソング「Dance With Me(KOREA/JAPAN Ver.)」(CHEMISTRY&LENA PARK)をはじめトップアーティストが共演、友情年のスタートを飾りました。

コリアジャパン・ロードクラブ フェスティバル ▶ 48ページ

日韓のDJやバンドの競演、若手アーティストによる展示やパフォーマンスをはじめ、7つのライブハウスでのオールナイトイベントを行ないました。



開高健記念アジア作家講演会

1990年から行なっている「アジア作家講演会シリーズ」は、開高健氏のご遺族から寄せられた志をもとに毎年アジアの文学関係者を招へいし、アジア文学を多くの方に紹介することを目的とした事業です。14回目となった2004年度は、韓国よりキム・ヨンス氏を招き2月18日の福岡から3月1日の札幌講演まで、全国5都市で開催されました。

日米交流 150周年

2004年は日米和親条約が締結されてから150周年に当たる年でした。日米両国は、その出会いから現在に至るまで、さまざまな試練を乗り越えて、政治、経済、文化等あらゆる分野で交流を深め、今日の良好な友好協力関係を築いてきました。2004年を一つの節目として、ジャパンファウンデーションもさまざまな文化交流事業を実施しました。

日米交流150周年シンポジウム ▶ 34ページ

2004年4月3日、日米交流150周年委員会と共催で、横浜市開港記念会館にてシンポジウム「日米交流の軌跡と展望」を開催。ペリー提督来航と翌年の日米和親条約締結から150年間の日米交流史を振り返り、国際社会の諸問題への対処について考察しました。研究者、行政・外交関係者など400名近くが参加し、大盛況となりました。



日系アメリカ人リーダーシップ・シンポジウム 「アジア系アメリカ人の多様性:連帯に向けて」

日米センターでは2004年3月27日から4月4日にかけて、日系アメリカ人リーダー13名を招へいしました。本事業は、日系人と日本人の相互理解と、将来の日米関係の強化を目的に実施され、参加者は、歌舞伎や織物など日本の伝統文化に触れるとともに、政治や経済、教育関係者との懇談会を行ない、現代日本への理解を深めました。

宮本亜門演出作品のブロードウェイ公演 ▶ 16ページ

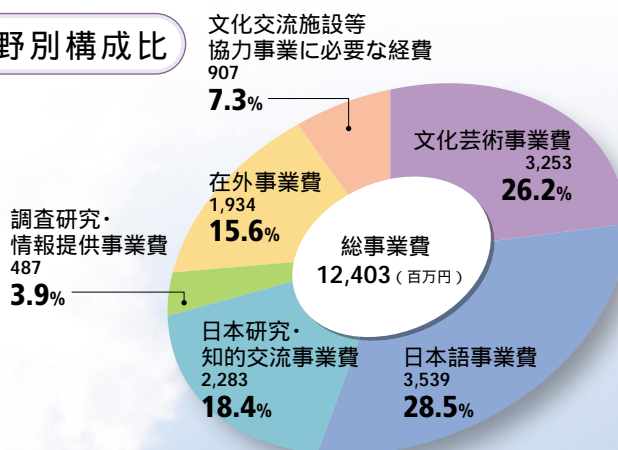
宮本亜門氏が日本人として初めて、本場ニューヨークでブロードウェイミュージカル「太平洋序曲」を演出しました。多様な文化的背景をもつアメリカ人出演者たちを演出する難しさを乗り越え、第59回トニー賞の4部門にノミネートされるほどの高い評価を得ました。



日韓友情年 2005

中東地域との 交流強化

分野別構成比



ジャパンファウンデーションは2004年度、中東地域との文化交流事業にも力をいれてきました。

中東派遣ミッション ▶ 31ページ

2004年9月、「第2回中東地域文化交流・対話ミッション」をヨルダンとイランに派遣し、「伝統と近代」をメインテーマとするシンポジウムを開催しました。また、政策課題について有効な方法論を討議すべく、「日・アラブ対話フォーラム」をはじめ、知的交流の優先的アジェンダの設定を目的とした会合なども実施しています。



中東映画祭 ▶ 14ページ

アジア・中東諸国に関する日本人の理解を深めることや日本人のイスラームに対する意識改革を目的に事業を展開しています。2004年度は、国内でのアジア・中東映画の上映に加え専門家によるイラク報道やレバノン映画史をテーマとする講演会を実施。また、初の試みとして在留外国人を対象とした英語字幕付き日本映画の上映会も行ないました。

イラクからの教員招へい、 劇団アル・ムルワッスやウード奏者招へい ▶ 13ページ

イラク・アラブの文化理解をめざし、2004年10月にはアル・ムルワッス劇団(イラク・バグダッド)公演を、11月から12月にかけてはアラブの伝統的弦楽器「ウード」のコンサートを開催。また、イラクから招かれた中学・高校教員グループは、国内の小中学校での生徒や教員との交流をはじめ、日本の教育に関するレクチャーの受講などを行ないました。

中東理解講座 ▶ 18ページ

中東地域およびイスラームに対する関心の高まりを受け、2004年度は「中東理解講座」など8講座を開講しました。メディア報道で注目を集めた分野以外にも日本では馴染みの薄かった中東地域の文化面を重視した幅広い内容設定で、延べ472名が受講。

拡大する日本語教育とジャパンファウンデーションの役割

日本語教育機関調査の結果発表

2003年度に全世界を対象として実施した「海外日本語教育機関調査」の集計結果を刊行。本調査では、海外127カ国の学校などで日本語教育が行なわれ、約235万人が日本語を学習していることが明らかになり、過去5年で12%の増加が認められました。多くの国において、日本のポップカルチャーに対する関心から、日本語を学び始める若者が増加していることが報告されています。

意見書の提出

2004年12月1日、ジャパンファウンデーション理事長小倉和夫が、首相官邸において細田官房長官に「世界における日本語教育の重要性を訴える」有志の会が作成した意見書を提出。この意見書は、各界の有識者や著名人をメンバーとするこの会が、日本語教育の必要性を訴えると同時に、国際化社会の中で日本が一層の力を発揮することを目的に作成されました。